

# 稲沢市 ヤングケアラー実態調査

## 自由記入意見のまとめ

自由意見のうち小学生・中学生・高校生世代の「家族のケアをしているこどものために、必要だと思うことや学校や周りの大人にしてもらいたいこと、市として取り組んでほしいことなどがあれば自由に書いてください。」と教職員の「ヤングケアラー」に関してご意見をご自由にお書きください。」への回答のうち、主な意見をまとめました。

### 小学生

#### ① 気軽に相談できる環境や相談相手が必要

最も多かったのは、「一人で抱え込まず相談できる場所が必要」「学校の先生や周りの大人に話を聞いてほしい」「相談窓口をもっと増やしてほしい」といった意見でした。自分から相談しにくい子どももいるため、大人から声をかけたり、相談しやすい雰囲気づくりが大切という声も多く見られました。

#### ② 周りの大人や地域が気づき、支えることが大切

「周囲の大人が気づいて助けてほしい」「学校・地域・近所の人が協力して支えてほしい」「子どもだけに負担を任せないでほしい」など、家庭だけでなく地域全体で支えることの重要性を挙げる意見が多くありました。

#### ③ 子どもが休める時間や自由な時間を確保してほしい

「遊ぶ時間や勉強する時間を大切にしてほしい」「休憩できる時間が必要」「自分の時間を持てほしい」「無理をしすぎないでほしい」など、子どもらしい生活を送れる環境づくりを望む意見が多く寄せられました。

#### ④ 支援制度やサービスを充実させてほしい

介護サービスやヘルパー、施設の充実、相談機関の整備、経済的支援（補助金・寄付・募金など）を求める意見も多くありました。子どもに代わってケアを担う仕組みや、家庭への支援を充実させてほしいという声が目立ちました。

#### ⑤ ヤングケアラーへの理解を広げてほしい

「もっと多くの人に知ってもらいたい」「学校で学ぶ機会を増やしてほしい」「実態調査やアンケートを続けてほしい」など、社会全体の理解促進を求める意見も多く見られました。

#### ⑥ 思いやりや助け合いを大切にしたい

「困っている人がいたら助けたい」「優しく寄り添いたい」「みんなで助け合う社会になってほしい」といった、思いやりや協力を大切にしたいという意見も数多く寄せられました。

---

### 特徴的な意見

- 子ども自身が相談しづらい場合もあるため、大人から「困っていることはない？」と声をかけてほしい。
  - 家族のお世話を理由に遅刻や宿題ができなかった場合は、学校で柔軟に対応してほしい。
  - スクールカウンセラーや相談アプリなど、相談方法を増やしてほしい。
  - 家庭訪問や定期的なアンケートなど、困っている子どもを早く見つける仕組みが必要。
  - 子どもだけで抱え込まず、介護サービスやボランティア、地域の支援を活用できるようにしてほしい。
  - 「ヤングケアラー」としてだけではなく、一人の子どもとして寄り添ってほしい
- 

## 全体の傾向

アンケートでは、「相談できる環境づくり」と「周囲の大人や地域による支え」を求める意見が最も多く寄せられました。また、子どもが家族のケアだけでなく、勉強や遊び、自分の時間を大切にできるよう、休息や経済的・福祉的な支援の充実を望む声も多く見られました。さらに、ヤングケアラーへの理解を社会全体で深め、子ども一人ひとりに寄り添いながら支えることの大切さが、多くの自由記述からうかがえました。

### ① 経済的な支援の充実

最も多かったのは、補助金や支援金、手当などの経済的支援を求める意見でした。介護や生活にかかる費用への補助、食料支援、施設利用料の軽減など、家庭の負担を減らしてほしいという声が多く寄せられました。

### ② 気軽に相談できる環境づくり

学校や地域で相談しやすい場所や機会を増やしてほしいという意見が多くありました。相談窓口だけでなく、「まず話を聞いてほしい」「学校以外にも相談できる場所がほしい」「チャットなど気軽に利用できる仕組みがほしい」といった声も見られました。

### ③ 家族のケアを支えるサービスの充実

ヘルパーや介護士、ボランティアなどを家庭へ派遣し、子どもの代わりに家族のケアや家事を担う仕組みを望む意見が多くありました。また、介護施設やデイサービスの充実、無料・低負担で利用できる制度を求める声も多く見られました。

### ④ ヤングケアラーへの理解を広げる取組

学校での授業や講座、ポスター、キャンペーンなどを通じて、ヤングケアラーについて多くの人に知ってもらいたいという意見が多く寄せられました。偏見や誤解をなくし、周囲が気づける環境づくりを求める声もありました。

### ⑤ 周囲の理解や寄り添い

「優しく接してほしい」「話を聞いてほしい」「決めつけしないでほしい」「特別扱いではなく普段どおり接してほしい」など、周囲の理解や共感を大切にしてほしいという意見が多く見られました。

### ⑥ 学校生活・学習への支援

オンライン授業や学習支援、宿題への配慮、学校へ通いやすい環境づくりなど、学業を継続できる支援を望む意見が寄せられました。

### ⑦ 子どもの休息や自由時間の確保

「休みがほしい」「睡眠時間や自分の時間を確保してほしい」「友達と遊ぶ時間や勉強する時間を持てるようにしてほしい」といった、子どもらしい生活を送れる環境を求める意見も多くありました。

### ⑧ 早期発見・実態把握

アンケートや家庭訪問、定期的な見守りなどを通じて、困っている子どもを早期に発見し、必要な支援につなげてほしいという意見も見られました。

---

## 特徴的な意見

- ・ ヤングケアラー向けの専用相談窓口や電話・チャット相談を設ける。
- ・ ヘルプマークのように、支援が必要なことを周囲に伝えられるマークを作る。
- ・ ケアを担う子ども同士が交流し、気軽に話せる場を設ける。

- 学校へ通えない子どものためにオンライン授業や柔軟な学習環境を整備する。
- 市がヘルパーやボランティアを家庭へ派遣し、子どもの負担を直接軽減する。
- 定期的な実態調査や家庭訪問を継続して実施する。
- 「相談したらどのような支援につながるのか」を具体的に伝え、相談への心理的なハードルを下げてほしい。
- 子どもが子どもらしく過ごせるよう、休息や自由時間を確保できる仕組みを整えてほしい。

---

## 全体の傾向

自由記述全体を通して、「経済的支援」「相談しやすい環境づくり」「家族のケアを支えるサービスの充実」の3つに関する意見が特に多く寄せられました。また、支援制度の充実だけでなく、ヤングケアラーへの理解を広げ、周囲の大人や地域全体で支えていくことの重要性を求める意見が多く見られました。さらに、子ども自身が安心して相談でき、学びや休息の時間を確保できる環境づくりを期待する声が数多く寄せられました。

### ① 家族のケアを一人で抱え込まないための支援が必要

最も多く見られたのは、「子どもが家族の介護や世話を一人で担わないようにしてほしい」「子どもの負担を減らす支援が必要」といった意見でした。介護サービスや家事支援、訪問によるサポートなど、子どもに代わってケアを担う仕組みを求める声が多く寄せられました。また、精神的な相談だけではなく、日常生活の負担を直接軽減する支援が必要という意見もありました。

### ② 経済的な支援や制度の充実が必要

「補助金や支援金を出してほしい」「ケアによってアルバイトや勉強の時間が減ってしまう子どもを支援してほしい」といった意見が多くありました。介護や福祉サービスの利用費、進学費用、学用品などへの経済的な支援を求める声が見られました。家庭の状況によって子どもの将来の選択肢が狭まることのないよう、支援制度の充実を望む意見が多く寄せられました。

### ③ 学校や周囲の大人が気づき、支えることが大切

「本人は自分がヤングケアラーだと気づいていない場合がある」「自分から相談することが難しい子もいるため、大人が気づいて声をかけてほしい」といった意見が多くありました。学校の先生やスクールカウンセラー、地域の大人が子どもの変化に気づき、必要な支援につなげる仕組みを求める声がありました。

### ④ 子どもが学び、休み、自分の時間を持てる環境づくりが必要

「友達と遊ぶ時間がほしい」「勉強する時間を確保してほしい」「子どもらしい生活を送れるようにしてほしい」といった意見が多く寄せられました。家族のケアによって、学校生活や進学、将来の夢を諦めることがないよう、学習面での配慮や自由な時間を確保する支援を求める声がありました。

### ⑤ ヤングケアラーへの理解を広げ、相談しやすい社会にしてほしい

「ヤングケアラーについてもっと多くの人に知ってほしい」「学校で学ぶ機会を増やしてほしい」「支援を受けることを恥ずかしいと思わない社会にしてほしい」といった意見がありました。本人や家族だけでなく、地域全体がヤングケアラーについて理解し、支え合える環境づくりを求める声が多く見られました。

### ⑥ 地域や社会全体で助け合う仕組みが必要

「困っている子どもを周りが支えてほしい」「地域の人が見守ってほしい」「一人で抱え込まなくてよい社会にしてほしい」といった、周囲の協力や助け合いを求める意見も多くありました。家庭だけに負担を集中させるのではなく、学校・地域・行政などが連携して支えることの大切さが示されました。

---

### 特徴的な意見

- 子どもは家族のことを「当たり前」と感じてしまい、支援が必要な状態に気づけない場合があるため、周囲の大人が声をかけてほしい。
- 「子どもだから」という理由で話を軽く受け止めず、本人の言葉の奥にある困りごとに耳を傾けてほしい。
- カウンセリングだけではなく、介護サービスや家事支援など、実際の負担を減らす支援を優先してほしい。
- 家族のケアによる遅刻や欠席、課題の遅れなどについて、学校で柔軟に対応してほしい。

- 匿名相談、メールやアプリによる相談、夜間でも利用できる相談窓口など、相談方法を増やしてほしい。
  - 「ヤングケアラー」として特別に見るのではなく、一人の子どもとして、夢や目標を持てるよう支えてほしい。
- 

### 全体の傾向

アンケートでは、子どもが家族のケアを一人で抱え込まないための支援や、周囲の大人や地域が気づき支える仕組みづくりを求める声が多く寄せられました。相談体制の充実に加え、介護サービスや家事支援、経済的支援など生活負担を軽減する具体的な支援も望まれています。ヤングケアラーが家族を大切にしながら自分の学びや友人との時間、将来への希望を持って成長できる環境づくりが重要であり、市・学校・地域が連携して子どもの小さな SOS に気づき支援につなげることが求められています。